

あのひとを思って夏ギフト

夏がすぐそこまでやってきました。この夏の贈りものは、もうお決まりですか？
大切な人を思いながらあれこれと選ぶのは、とてもしあわせなひととき。
贈りものにまつわる、小さなエピソードをご紹介します。

66 贈りもののよろこび 99

「とにかく、ソクシュウだけは用意しておいてね。
そういうことはまったく気にされない先生なんだけど、やっぱりね」

子どもが大学合格を機に地方へ巣立っていき、この春、私のもとに
何十年ぶりかで“自分の時間”が戻ってきた。小さな解放感で
浮かれたのも束の間、言いようのない淋しさが募り、あれほど待ち
望んだ“自分の時間”をどう使っているかわからない。複雑な
心境で過ごしていた私に、学生時代からの友人が「茶道、やっ
てみない？」と声をかけてくれた。
私たちは中高一貫校で学んだクラスメイト。彼女は13歳で茶道
部に入り、卒業後も顧問だった師匠のご自宅に通ってお稽古を
続け、30年を超える茶歴を持つのである。
「おいしいお饅頭とお抹茶を味わおうって、はじめはその程度の
気楽さでいいのよ」
そして初めてのお稽古日が近づいてきたある夜の電話で、ソク
シュウなるものの準備を言い渡されたのである。

「ソクシュウ？ …ってなによ、どんな字を書くの？」

束脩——スマホをたたくとWikipediaが教えてくれる。
入学・入門の際、弟子・生徒が師匠に対して納めた金銭や飲食
物のこと。「脩」は干し肉のことで、これを10組束ねたものを束脩
というのだそう。『論語』に出てくる言葉らしく、古代中国の謝礼の
なかでは最も軽いもの。つまり、謝礼の多い少ないにかかわらず、
礼を尽くして教えを乞う弟子には、必ず教えを授けたというお話。
さすが茶道、奥が深い。なんと言っても“道”、だものね。

早速「束脩」をなににしようか、彼女に相談しながら考える。
“うちの先生は、お金はお受けにならないのよ
だからみんなで食べられるお菓子がいいと思うの”
“茶道は季節感を大切にするのよね？ 6月にふさわしいものって？”
“少し日保ちするものでないか。あと、あまり高価だと先生に気を
遣わせてしまうから、そこは要注意”
“でも最初のごあいさつだから、少しぐらい贅沢でもいいか…”
“みなさんのお好みも聞いてもらっておけばよかったな”

なにをお持ちしたらいいのか、どんなものなら失礼にあたらないか。
彼女とふたり、百貨店のお菓子売場を2周しても決まらないほど

先生を思い、今後お世話になる他のお弟子さんに頭を巡らせた。
贈りものを選ぶのにこれほど悩み、考えた経験はこれまでに
なかったような気がする。けれども、あれやこれやと相談しながら
ショーケースに並ぶ商品を見て回るのは、なんて楽しく、あたたかい
時間なんだろう。

やっとの思いで私たちが選んだのは、若鮎。清流をスイスイ泳ぐ
鮎の姿をしたかわいらしいお菓子だった。「結局、この時期の
定番じゃないの」と笑顔の彼女。でも、ふんわりと上品な味は召し
上がる方の好みを選ばないし、比較の日保ちのする優れもの。
季節感もバッチリ。果たして師は、喜んでくださるだろうか。
数日後、若鮎を携え、期待と緊張感いっぱいで師を訪った私は、
やわらかな笑顔に迎えられ、この年にして初めて茶の湯の道に
足を踏み入れることになった。

季節の移ろいが早くなったように感じる今日この頃、6月ともなれば
梅雨の晴れ間はすでに夏空。そろそろ夏の贈りものを準備しな
いと…。虚礼廃止やコンプライアンスなんて言葉も聞かれるよう
になって、お中元やお歳暮の習慣は薄れていく傾向にあるらしい
けれど、この夏も、私はやはり贈りものを選ぶ。
“あの方は今年ご家族が増えたのよね、
みんなで食べていただけるジェラートがいいかな”
“あのおうちは息子さんが二人、絶対お肉だわ”
受け取ってくださる方々の笑顔を想像すると、
私も自然と笑顔になっているのが、
贈りもののいいところ。

贈りものがうれしいのは、子どもの頃。
大人にとっての贈りものは、うれしくて、楽しいもの。
そして贈る側の心をあたためくれるもの。
さて、この夏、あの人になにを贈りましょうか。



66 ギフト豆知識 99

日頃の感謝の気持ちを込めて、夏に贈りものをするお中元。起源は中国の道教と
されています。「中元」とは旧暦7月15日のことで、道教では先祖の霊を供養する
大切な日でした。その時期に贈りものをする習慣がお中元と言われるようになった
ようです。やがて日本に伝わり、お盆の習慣と結びついて、お供えものを分け合ったり、
親の無病息災を願った贈りものなどと混ざり合っていました。江戸時代には、商人
が取引先への挨拶として贈りものをする習慣として定着していったそうです。

お中元とは？

お中元の マナー

のし 熨斗と水引



まず贈る時期。かつては、関東では7月
初旬から7月15日まで、関西では7月
中旬から8月15日までに贈るという傾向
でしたが、全国的に7月の中旬まで
にお届けするのが一般的ようです。
昨今では6月から贈り始める方が多
くなるなど、宅配便事情などもあり、早まる
傾向にあるのだとか。感謝の気持ちを
伝えるためのご挨拶と考えれば、早め
の準備がベターです。
また、時期を過ぎてしまった場合は残暑
見舞いとして贈ることができますが、遅く
ても8月中には贈りたいものです。

お中元に 適さないもの

日頃の感謝の気持ちを伝える品物で
あっても、お中元には適さないものが
あります。たとえば…

- 刃物
縁を切るという意味があり、避けたい
品物です。
- 時計・筆記用具
感謝どころか「一生懸命働きなさい」と
いうメッセージを含むそうです。
- 履物
相手を踏みつけるという意味があり、
避けましょう。

「熨斗」と「熨斗紙」は違うものであることをご存じでしょうか。「熨斗」とは、
贈答品の包装の右上に添えてある飾りのことで、鮎を薄く切り伸ばして
乾燥させた「伸し鮎」に由来するものです。長生きや長持ちを表現する
印であったものが、高価な贈答品として添えられるようになり、時代を経て
現在のスタイルになりました。一方「熨斗紙」は、簡略化された熨斗と
水引を印刷した包装紙をさします。
「水引」は、本来、贈答品を包む奉書紙を結び止めるこよりのようなもの
でした。現代では、特に贈答品において印刷されたものを使うことが多く、
贈り手が自身で結ぶことは少なくなりました。「結び目によって贈り手の
気持ちを表現する」という重要な役割があります。



蝶結び

簡単にほどけて、何度
でも結び直せることから、
将来重ねて起こっても
よいお祝いに使われ
ます。お歳暮やお中元
などのご挨拶にも使う
ことができますが、結婚
の際の水引としてはふ
さわしくありません。

あわじ結び

結び切りと似た意味で
使われます。両端を引
張るとさらに強く結ば
れることから、「未永く
続こうに」という意味
があります。華やかな
ので、結婚のご祝儀など
一度だけのお祝いごと
によく使われます。

結び切り

一度結ぶと引張って
もほどけないことから、
「同じようなことが起
こらないように」といった
意味が込められてい
ます。結婚のご祝儀や
病気のお見舞い、快気
祝い、お葬式などにも
用いられます。

続いて、大倉クラブ&ホテルズおすすめの
夏ギフトをご紹介します。
ぜひご覧いただき、この夏の贈りものにご検討ください。